＝回覧＝

上野南部自治協だより

平成３１年 １月 4日発行 第42号
上野南部地区住民自治協議会
上 野 南 部 公 民 館
伊賀市上野桑町1412
電話番号：23-5236
http://ueno-nanbu.com
メール：u-nanbu@ict.ne.jp

謹　賀　新　年

上野南部地区住民自治協議会
会長　小丸　勘司（コマル タケシ）

新しい年をつつがなくお迎えのことと、お慶び申し上げます。
昨年中は上野南部地区住民自治協議会に対しまして、多大なご協力を賜り誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

伊賀市が誕生し、伊賀市自治基本条例が施行され、そして住民自治協議会が生まれて１５年・・・

今までは自治会だけの行事が、南部１１町合同の行事も企画されることにより、今まで知らなかった方との交流も進み、さらに“向こう三軒両隣”「ご近所との絆を取り戻そう運動」も定着してまいりました。

地域の安全・安心のためのパトロールや人権啓発、健康づくりや環境美化など、活動を通して少子高齢社会を肩寄せ合いながら伸び伸びと生き抜いてまいりましょう。

過去１０年を振り返って

今から１０年ほど前の平成２１年頃、伊賀市では自治会連合会と住民自治協議会の間の話し合いが数回ありました。
私は自治協側の立場で、お互いに納得したのは、住民自治協議会は条例で設置された公共団体である。自治会連合会は実力は持っているけれども公共的団体ではない。どちらも得することを考えようと折り合いをつけました。そして自治会連合会は解散しました。自治会 町内会は世帯内自治を前提とした集団です。だから世帯別の会費です。例え８人の世帯でも同じ自治会費、１人暮らしでも同じ自治会費、自治会町内会は会員さえ納得すれば、どんな運営をしてもかまわない面があります。これは全国共通です。住民自治協議会は世帯内自治を前提にしていません。加入します　しません関係ないのです。地域の人たちは自動的に全員構成員です。だから小さな政府です。そのぐらいに位置付けが違いますから、条例で担保する必要があるのです。住民自治協議会は、伊賀市自治基本条例で裏打ちされた非常に責任の重い組織です。ですから透明性、公開性、全部義務付けられています。自治会とはそれほど大きな差があります。

まちづくりはおもしろいどー

まちの未来を語ること、まちの将来を作っていくことは楽しいことです。どういう風にしたい、10年後20年後はこんなまちにしたいよね、というビジョン形成力、構想力をお互い鍛えあって、その方向に向かって力を合わせるという行動の仕方を私達はいつの間にか忘れてしまってたのではないか。それをもう一度回復しないといけないと思います。
不満とか批判だけでなく、やはり人間の中にある幸せを願う心、愛情や“相手を思いやる心”というものが人間の行動力の基盤になるということをこの住民自治協議会活動は教えてくれたと私は感謝しています。

始まりは阪神淡路大震災から

中核市以上の市は非常に明確な危機意識を持って、住民自治を強化するという方向に、いわゆる分権改革を進めています。こういう動きが加速してきた大きな原因は阪神淡路大震災です。阪神大震災の時に地域のコミュニティの力が強いところは相対的に被害が軽かったのです。その一方で顔も名前もわからない、挨拶もしない協力もしないというところは、人が死んでいてもわからなかった、という事例がありました。長田区の菅原商店街は完全に丸焼けになりました。ものすごい人的被害を受けたけれども、３０％近い人が建物の瓦礫の下から引きずり出されて助かったのです。これはなぜかというと、安否確認ができたということです。顔と名前がわかっており、普段挨拶もしているから「あのおばちゃんがおらん」というのがすぐわかったというのです。それが大事ではないかということが認識されて、神戸市は阪神淡路大震災直後から地域コミュニティ政策に力をかけるようになり、他の自治体も学びだしました。

始まりは「挨拶」から

額に汗して働き、負担すべきものは負担する、そしてお金儲けに関係なく社会に貢献する。危機があった時は自ら立ち上がるという行動原則です。この3つができなければ、市民とは言えないと思っています。このような市民が生まれてくる、育ってくる、見つかってくる、現場はどこなのか？まさしく自治会町内会であり、住民自治協議会がつくられてくるプロセスと現場だと思います。どうすれば絆ができるか？第一段階は挨拶です。挨拶をしないような町に絆が生まれるはずがありません。挨拶が通じ合う町というのは、これは面識社会と言いますが、顔と名前が分かり合っている範囲を広げていくという努力をしない限り、なかなか根付きません。ですから、挨拶運動は最優先です。私たちが自治協立ち上げ以来、首尾一貫して取り組んでいる「向こう三軒 両隣」“ご近所との絆を取り戻そう”運動は的を得ていると思っています。そして、お祭りや運動会、各種イベントに若者、女性、子どもたちをもっと関わらせる努力をしていこうではありませんか。共に前に進みましょう

３０年の平成時代が終わり、新しい希望に満ちた新年号のもと、上野南部１１町（東・西忍町、鉄砲町、愛宕町、万町、東・西日南町、茅町、池町、恵美須町、桑町）が一致団結して、明るく安心できる町づくりに共にご参加いただきますよう、心からお願い申し上げます。